

キリスト教史学会 第68回大会

2017年9月15～16日

宗教改革500周年記念シンポジウム 9月15日(金)14:40～18:10

ヴェーバー「倫理」論文とキリスト教史学

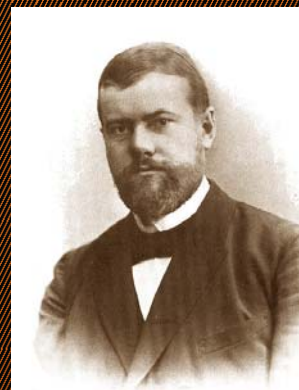
20世紀初頭に発表されたマックス・ヴェーバーの論文「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」は、キリスト教を題材にして、その厳格な教義や教会組織と経済行為の関連を問うことによって、資本主義と市民社会の淵源を説明した意欲的な著作である。本シンポジウムは、この難解な論争の書を、最新の研究成果をもとに読み解くことを目的とする。

趣旨説明

1. ルター
2. ピューリタニズム
3. 洗礼派・バプテスト
4. ドイツ敬虔派
5. メソジスト

大西晴樹 (明治学院大学教授)
大村真澄 (本学会会員)
梅津順一 (青山学院院長)
大西晴樹 (明治学院大学教授)
猪川由紀 (上智大学講師)
馬淵彰 (日本大学教授)
山本通 (神奈川大学名誉教授)
大村修文 (本学会会員)

コメント 司会



※学会員以外の方は、会場受付で、大会参加費1000円を申し受けます。

公開討論 9月16日(土)13:00～14:30

宗教改革500年を記念して

—カトリックとプロテスタントが共存する今

パネリスト 木ノ脇悦郎 (元福岡女学院院長)
坂野正則 (上智大学准教授)
司会 伊勢田奈緒 (静岡英和学院大学教授)

※どなたでもご参加できます(入場無料)。

会場 聖心女子大学 4号館 ブリット記念ホール

交通 東京メトロ 日比谷線 広尾駅 4番出口(六本木駅寄り)より徒歩1分